

# 安吾賞

第5回



安吾賞とは生きざま賞である。



ANGO  
Awards  
The 5th

新潟市

安吾の覚悟

# 日本文化私観

どうしても書かねばならぬこと、書く必要のあること、ただ、そのやむへからざる必要にのみ応じて、書きつくされなければならぬ。

安吾の純情

# 桜の森の満開の下

彼の手の下には降りつもった花びらばかりで、女の姿は掻き消えてただ幾つかの花びらになっていました。そして、その花びらを掻き分けようとした彼の手も彼の身体も延した時にはもはや消えていました。あとに花びらと、冷めたい虚空がはりつめているばかりでした。

安吾の喝

# 墮落論

随ちる道を随ちきることによって、自分自身を発見し、救わなければならない。政治による救いなどは上皮だけの愚にもつかない物である。

# 歴史的感覚

丸谷才一

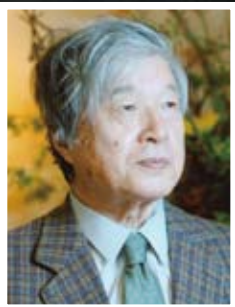
坂口安吾の本でわたしを圧倒したのは『信長』。すばらしい作品だと思う。あの奇蹟的な英雄が、伝説としてではなく生身の姿で迫ってくる。勢いがよく、生きがよい。有無を言はせぬ造形力である。この作家のあらゆる欠点が、『信長』の場合には逆に長所となって、主人公の特異な肖像を描き、時代精神を担ってほとばしる生命力を印象づけるのに役立つている。

始まりがよく中がよく終わりがよい完璧の物語だ。わたしは息を呑み、これは天才の書いた傑作だと思った。

安吾は本質的などころで歴史家で、歴史を対象とするときにその批評家的力量は最もよく発揮されるのだ。

その人を記念する賞を下ナルド・キーンさんが受ける。まことに筋の通った人選で感嘆を禁じ得ない。

キーンさんの得意の業は、もともと、世界と人間の歴史的な把握で、これは最初の作品であるあの宝石のように輝かしい『日本の文学』から『日本文学史』を経て最近の『明治天皇』に至るまで一貫しているからである。文学史的話術に長けているのはアメリカ文藝批評の特質なのだが（たとえばエドモンド・ウィルソン）、キーンさんはその伝統を見事に受けつぎながら、日本と日本人を、まことに知的にそして情熱をこめて探求した。安吾に通じる、太い棒のようなものがある。



撮影：読売新聞東京本社写真部



## 新潟市長 篠田 昭

第5回安吾賞は、日本文学・文化研究者のドナルド・キーンさんに決定しました。

ドナルド・キーンさんは若い頃に日本文学・文化に魅せられ70年にわたり研究を続けてこられた方です。

日本を度々訪れ、日本の古典文学に触れるとともに、伝統芸能にも興味を持ち、自ら狂言の『太郎冠者』を演じたり、大英博物館で発見された古浄瑠璃『弘知法印御伝記』の復活上演に尽力するなど、日本文化の研究と普及に情熱的に挑戦し続けていらっしやいます。

キーンさんの日本文学・文化探求に対する行動力、海外に日本文化を広め、私たちにその素晴らしさを再認識させてくれたことは、まさに挑戦者魂にあふれ日本人に勇気や元気を与えてくれたという点で、安吾賞に相応しい人といえます。

また、新潟市にゆかりのある方にお贈りする新潟市特別賞は、『こわれ者の祭典』代表の月乃光司さんに差し上げることにしました。

月乃さんは引きこもり生活やアルコール依存症、自殺未遂などつらい時期を過ごされましたが、アルコール依存症を克服し、現在は心身障がい者によるパフォーマンス集団『こわれ者の祭典』代表として活躍されています。

自らの病気体験をユーモアに転化するというかつてない方法で心や身体に障がいをもち方々、病気に苦しむ人たちに光を当て

生きる力を与え続けている月乃さんの活動に心から敬意を表したいと思います。

新潟市はこれからも反骨と飽くなき挑戦者魂の安吾精神を発揮する「現代の安吾」に光を当て、安吾賞を広く発信してまいります。



## 選考委員長 野田 一夫

### 第5回「安吾賞」の選考を終えて

今年度の『安吾賞』受賞がドナルド・キーンさんに決まったことは、私にとって二重の喜びだ。一つは、「国籍、年齢、性別、職業」を問わず、その生きざまが安吾のそ

れに通ずると当初から謳ってきた選考基準に則り今回始めて学者でかつ外国人であるキーンさんが受賞されたことは、その選考基準の現実性をより確かに裏付けることになったからだ。もう一つ。これは全く私的なことだが、今回の授賞選考をもって、私は初代委員長としての役割を無事果たし終えることができた。

6年前篠田市長から突然「新潟生まれの作家、坂口安吾を顕彰するために、市として『安吾賞』を創設するので選考委員長を…」という趣旨の電話を頂戴した時のことが、まるで昨日のことのように思い出される。「文学と関係がないし、新潟とも関係がない」と当然ご辞退した僕も、結局は「大学教授としての野田さんの生きざまがどこか安吾のそれに一脈相通ずるから…」という篠田氏の説得に何となく心をくすぐられ、柄にもない大役を引き受けることになってしまった次第だが、今になって

は、有能かつ気分がいい委員の方々のおかげで、本当にやり甲斐のある仕事をやらせていただいたと深く感謝している。

上記のいきさつから、『安吾賞』は以来「生きざま賞」と呼ばれて今日に至っている。こんな賞は日本はもとより世界でも聞いたことがない。坂口安吾の生きざまとは、時流に流されず、慣習に染まらず、権力に臆することなく…、常に自分の体験に基づき独自の信念なり思想をもって発言し行動することにより世の人々の良識を呼び覚ます、といった人間の生き方だと言つてよからう。バブル崩壊後久しく活力を失い、ひたすら暗い未来に怯えがちな日本社会には、今こそ各界に「坂口安吾の生きざま」を持った人物の存在がますます重要視される。その意味で私は、『安吾賞』が今後未永い歴史を重ねていくことを心から祈念してやまない。

# 第5回 安吾賞

2010

新潟市ゆかりの作家である坂口安吾は、文学をはじめ多くの分野において何事にも一生懸命に挑み続ける人であった。安吾の精神を具現し、さまざまな分野で挑戦し続けることにより、わたしたち日本人に喝を与えた個人または団体を表彰する「安吾賞」。挑戦者を応援する新潟市は、第5回の受賞者として、日本文学・文化研究者の『ドナルド・キーン』氏を選出した。



# 第5回 安吾賞

日本文学・  
文化研究者

# ドナルド・キーン

Donald  
Keene

私が安吾賞を受賞するとの報せを受けて、喜びと驚きの両方を感じました。喜びの方はもちろん立派な賞を頂けることへの嬉しさですが、驚きの方は、私が坂口安吾の文学を翻訳したこともなければ研究したこともなかったからです。

しかし、すでに受賞された方々のお名前を見ると、安吾文学の専門家ばかりではなく、それぞれの分野で特徴のある仕事で認められた人々と分かれました。それでも少しの驚きは残っていますが、私を選んで頂いたみなさんに深く感謝しております。

ドナルド・キーン





# 碧い目の太郎冠者 ドナルド・キーン

前人未踏と言つていい。碧い目の太郎冠者の視線はいつも「日本人の忘れもの」に向いている。源氏物語に目を見張つた青年が、戦時中に日本兵の遺品の日記を解読し、詩情溢れる日本人の日記は文学たり得ると喝破した。そして、軍属の規律に反すると知りながらも、その日記をできることなら日本の遺族に送り届けたいと願つたという。

碧い瞳は更に日本文化の奥深くに注がれ、定家にも世阿弥にも、芭蕉、曾根崎心中にも分け入つて、ついに日本文学を英語に写しきつて世界に紹介した。若きキーン氏には異境に対する恐れはなかつたのだろうか。自ら太郎冠者となつて舞台に立つほどであれば、希有な挑戦者に違いない。そしてまた百代の过客、永遠の旅人でもある。



一九三八年・十六才／コロンビア大学に飛び級で入学。在学中に漢字に魅了され、町の本屋で偶然に出会つた「源氏物語」(アーサー・ウェイリー訳)に衝撃を受ける。49セントという安さであつた。角田柳作教授の下で日本思想史を学び、日米開戦にともない、情報士官として海軍に勤務、日本語の通訳官を務めた。



一九四五年・二十三才／終戦直後の沖繩にて、日本兵の捕虜から聞き取り調査をする。米軍の新聞に掲載された写真。戦時中に任務として携つた日本兵の日記(遺品)の解読をし、敵国の資料として嚴重に管理されたが、心情を吐露する日本人の日記に、心を揺さぶられ、できることなら遺族に送り届けたいと願つたという。一九八三年から朝日新聞に連載、絶賛された「百代の过客」日記を見る日本人は、ここに端緒を見る。



一九五四年・三十二才／京都の金剛能楽堂で太郎冠者を演じる。終戦後、米国では日本研究熱が急速に冷めていき、キーン氏は米国における日本研究者として稀少な存在となつてゆく。一九五三年、京都大学大学院に留学、京都市東山に下宿しながら日本文化への傾倒を深めてゆく。



一九六二年・四十才／「菊池寛賞」受賞に際し、在日米国外交公使館前にて。ライシャワー大使、中央公論社社長嶋中鵬二氏、三島由紀夫氏などと共に。以後も精力的に日本文学・文化の研究に邁進し、多くの著作を著す。近年は一年の半分を米国と日本で暮らしている。



2010年10月：東京都北区の書齋にて

## 略歴

1922年、ニューヨークに生まれる。16歳にしてコロンビア大学文学部に入学。フランス文学、中国語、日本語、日本思想史などを学び1942年卒業。在学中アーサー・ウェイリー訳『源氏物語』を読み感激し、後の日本文学研究の端緒となる。同年アメリカ海軍日本語学校に入学、太平洋戦争中日本語通訳官を務める。戦後、コロンビア大学大学院へ復学。日本文学研究に取り組み、博士号取得。1948年からケンブリッジ

大学で学び同時に講師。1953年から2年間京都大学へ留学。1955年からコロンビア大学に迎えられ教鞭を振るう。以降休暇などで度々日本を訪れ、現在まで日本文学、日本文化に関する著書を多数発表。コロンビア大学名誉教授、アメリカ・アカデミー会員、日本学士院客員。勲二等旭日重光章受章、文化功勞者、文化勲章。菊池寛賞、読売文学賞、毎日出版文化賞など受賞多数。

# 月乃光司の背中

会社員、芸術家、義士、善良な市民、人間は何某かの正しき衣を纏っていないければ生きづらいらしい。しかし、身にそぐわない衣は一層苦しく、心を蝕むことがある。安吾にもそんな時期があった。世人の視線にまみれて、もがき傷ついた瀕死の兵士のような重苦しい衣を、見事に脱ぎさった月乃氏の背中にはどうやら羽が生えたようだ。安吾を落伍者の先輩と呼びながら、堕ちきった場所から見えたことを世の中に押し返している。



撮影：末野（上3点）



© 月乃光司



© 西原理恵子





# 月乃光司

つきの・こうじ  
「こわれ者の祭典」代表

## 新潟市特別賞

絶望の真つ暗闇の中でも、目を凝らせば透けて見える明日があると思います。

おおむね、私は社会的な落伍者としての人生を歩んできました。十代の「引きこもり」「不登校」、二十代の「自殺未遂」「依存症」「精神科病棟入院」…、当時は明日の見えない日々に苦しみ抜いていました。

二十七歳、依存症の当事者グループと出会い、それを命綱として少しづつ、回復への上昇が始まりました。

今思い起こしてみると、落ちきったところから本当の自分の人生が始まった、と感じています。

坂口安吾を落伍者によるメッセージ活動の先駆者だと思っています。

「墮ちる道を墮ちきることによって、自分自身を発見し、救わなければならない」(墮落論) この言葉こそ、現代の我々にもっとも必要なメッセージなのかもしれません。

私は、落伍者としてのメッセージの方法を日々模索しています。

私がかつとも興味あるところは、安吾が世間や社会、そして日本に向けてメッセージを放ったところです。

依存症の当事者グループの枠を乗り越えて、対社会そして対世間の活動をしていくことが、なんといつても私の目標です。

言葉の銃弾を世の中へ撃ち込みたいのです。

言葉は散弾銃です。割れた銃弾が無数に飛び散り人々の心に届くこと、そんな活動をしたいのです。

1年間で3万人を超す人々が、自ら命を絶つ私たちの国へ向けて…。

今回の受賞を励みとして落ちきった世界から見える希望を、多くの方々々に伝えていきたいと思っています。

月乃光司



### 略歴

1965年2月3日生まれ 富山県出身・新潟県新潟市在住  
高校入学時から対人恐怖症・醜形恐怖症により不登校になる。引きこもり生活、通算4年間を過ごす。24歳よりアルコール依存症となり、精神科病棟に入退院を繰り返す。27歳から酒を飲まない生活を続け、自助グループ活動で社会的に回復する。平成14年より、心身障がい者のパフォーマンス集団『こわれ者の祭典』代表として8年間に50回以上のイベント開催

を行い、県内や全国のマスコミ、テレビ番組に取り上げられ、大きく注目を集める。また、新潟日報にコラム『心晴れたり曇ったり』を平成14年から5年間連載。最近では、漫画家・西原理恵子さんとの共著『おサケについてのまじめな話』(小学館)を刊行するほか、ラジオ番組のパーソナリティを意欲的に務めるなど、様々な活動を通じ、社会で生きることがつらいと感じている人々に力と勇気を与えている。

# 百代の過客、類い稀なる挑戦者

## ドナルド・キーンさんへ

二〇一〇年十月二十六日  
受賞者発表会に寄せて



渡辺謙  
第4回  
安吾賞受賞

### 異文化への壮大な旅

ドナルド・キーン様、坂口安吾賞受賞おめでとうございます。

昨年、私のような若輩者で一介の俳優がこんな素晴らしい賞を戴いて良いのか、悩みながら新潟に赴いた事を思い出しました。自分自身が坂口安吾という偉大な作家に本当に胸を張って向かい合えるのか半信半疑でした。

「自分の故郷に褒めてもらえた」その嬉しさで少し気持ちが悪くなった事を覚えています。ドナルド・キーン様のこれま

での活動された功績、年月には、この賞はどなたも異論を挟む余地のないものだと思います。ただ、ほんの少しだけ私との共通項を見いだそうとするならば、異文化の国で仕事をされて来たと言う事でしょうか。

旺盛で類いまれなる好奇心と情熱で、ここまで異文化を深く研究し理解し、そして勇気を持って発表して来た道のりは、壮大な旅をされて来たのだと、短い海外生活の経験しかない私でも、その素晴らしさを感じる事はできます。

恐らく私以上に、日本を愛し理解している大先輩の旅に負けないよう、私もこれから日本の心を世界に知ってもらえる為に研鑽、努力しなければと、改めて勇気を戴いた気がしています。受賞本当におめでとうございます。



瀬戸内寂聴  
第3回  
安吾賞受賞

### 不思議な御縁

ドナルド・キーンさま

この度は坂口安吾賞の御受賞おめでとうございます。私も一昨年思いがけず戴いた賞ですの、ひとしお嬉しくなりました。キーンさまとわたしは1922年生れの同い年ですから、今年は満88歳で、もうそこまで来ている新年には御一緒に卒寿を迎えることになりました。ほんとに長く生きてきたものです。

アメリカで生れ、アメリカで育たれたキーンさまと、日本の四国の徳島で生れ、徳島で育った私とが、それぞれの立場であの長い戦争を経験し、戦後共に文学にたずさわる仕事を選び、そのおかげでお目にかかることも出来、親しくおつきあい出来たのも、思えば不思議な御縁でございます。日本人の私が日本







#### 安吾賞記念盾

監修：小磯稔（新潟大学名誉教授）  
彫金：亀倉康之（日展会員、日工会理事）  
背景板：『錦塗』新潟市漆器同業組合

文学を学び、日本語で小説を書くようになったのは当たり前のことですが、アメリカ人のキーンさまが、いつの間にか日本の古典に通曉され、源氏物語をはじめ、日本の古典文学全般にわたって、日本人以上に深い理解を示されていらっしやるのは奇蹟とは思えません。

ここまで日本文学を研究された挑戦の情熱につづく頭が下がります。私は戦後の新しい小説家の中では坂口安吾が一番好きでした。

小説はもちろん、墮落論などは、敗戦で自分の心も見失っていた私にとっては聖書になりました。墮落論に影響され、熱中したばかりに、私は家を飛び出し墜ちるところまで墜ちました。でも安吾の教えを順法して、小説を書き続けて、どうにか一生の終わりを迎えそうになりました。安吾を信じてよかったです。つくづく思っています。

新潟の人たちは情に厚い優しい方ばかりです。この機会に、坂口綱男さんと仲よくなってください。純粹なとてもいい方です。お祝いの会に講演が入って

てかけつけられないのが残念でなりません。

はるかに御盛会の模様をのんびりしています。

近いうちにぜひゆつくりお目にかかりたいものです。

どうか御身御大切に遊ばれることを心よりお祈り申し上げます。

先は出席できないおわびと心よりのお祝いをこめて。

かしこ



野口健  
第2回  
安吾賞受賞

第5回安吾賞ご受賞おめでとうございます。長い間のご研究の成果が実を結ばれて、感無量でございます。今後とも一層ご活躍されますよう、お祈りいたします。



野田秀樹  
第1回  
安吾賞受賞

## 文化の救世主は外から

ご本人としては迷惑な話だと思いますが、今や、我々の世代には、ドナルド・キーン氏は「伝説」です。「日本人よりも日本の文化に造詣が深く、そして愛してくれる理解者である」という伝説です。出来ることならば、その御尊顔を拝しに、また肉声を拝聴しに、本日伺いたく思いましたが、生憎異国の旅の空の下におります。日本の戦後の破壊された文化状況にあつて、その文化を守り育むことの「一翼を担っていただいた先人に、日本語を使ってモノを作っている人間の一人として、心より感謝を申し述べたく思います。「自国の文化は、意外にも、外から救世主が現れる」という、フランスかどうかの諺を、思い出します。

【第5回】

# 安吾賞音信



## 第5回選考委員会

2010/8/16

全国から寄せられた過去最高の96件の推薦の中から選考が行われた。宣言書にある「権威におもねらず本質を提示するもの」「自らの信念を貫き挑戦し続けるもの」「日本人に勇気と元気を与えるもの」を選考の基本としながら白熱した議論が交わされ、第5回安吾賞はドナルド・キーンさんに決まった。

## 記者会見

2010/9/24

篠田市長と野田選考委員長、選考委員で安吾のご長男の坂口綱男さんによる記者会見が新潟市で行われた。「キーンさんは若い頃に『源氏物語』に感激して以来、70年余りにわたり日本文学・文化の研究に情熱的に挑戦してこれ、外国人であり

ながら日本文化を海外に紹介し、わたしたちに日本人としての誇りを与えてくれた。キーンさんの日本文化研究への一貫した信念と行動力は挑戦者魂に貫かれており、わたしたちに大いなる勇気と元気を与えてくれた。」と、その選考理由が語られた。

また、新潟市特別賞について篠田市長は「『こわれ者の祭典』代表の月乃光司さんにお贈りする。アルコール依存症を克服し、自らの病気を体験をユーモアに転化するということではない方法で、心や身体に障がいを持つ方々に光を当て、生きる力を与え続けている月乃さんの活動に敬意を表し、新潟市特別賞を差し上げたい」と述べた。

## 発表会

2010/10/26

東京都内のホテルにおいて、出版・報道各社、関係者などを招き、ドナルド・キーンさん、月乃光司さん出席のもと受賞者発表会を開催した。当日は、キーンさんの友人で、キーンさんが復活上演に尽力した古浄瑠璃『越後国・柏崎 弘知法印御伝記』の台本を大英博物館の収蔵庫から発見した鳥越文蔵・早稲田大学名誉教

安吾年譜

明治三十九年（一九〇六）十月二十日、父仁一郎、母アサの五男として新潟市西大畑町に生まれる。（本名・柄五）西堀幼稚園、新潟尋常高等小学校（現新潟小学校）へ進む。大正八年県立新潟中学校（現県立新潟高等学校）入学。この頃から学校にもあまり登校せず、ひとり日本海に面する浜辺に寝こんで空と海と風と波と光とを終日眺め思索した。荒漠たる風と日本海の風景は安吾文学の原風景といえる。

余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう。大正十一年、中学三年生の九月、落第が決定的となり東京の豊山中学校三年に編入。この時、新潟中学校の机のふたに「余は偉大なる落伍者となつていつの日か歴史の中によみがえるであろう」と彫つたという。大正十四年豊山中学校を卒業。世田谷下北沢の分教場（現代沢小学校）の代用教員となり自然の中に悪童たちと遊んだ。その体験は『風と光と二十の私と』になる。この頃から求道の厳しさに対する憧れが強まる。

求道者、安吾 大正十五年、東洋大学印度哲学倫理学科に入学。悟りを開くため多くの哲学宗教書を読破、睡眠四時間という厳しい修行生活を一年半続け神経衰弱に陥つたが、それを梵語、バリー語、チベット語、フランス語、ラテン語などを猛然と勉強することにより克服した。

文壇デビュー 昭和六年一月、処女作『木枯の酒倉から』を発表。五月『ふるさと』に寄する讃歌、六月『風博士』を発表、牧野伸一が激賞。七月『黒谷村』を発表、島崎藤村などが賞賛し、新進作家として文壇に認められる。昭和七年の夏、新進女流作家の矢田津世子を知り烈しいプラトニッ



議論白熱の選考委員会風景

## 出でよ、現代の安吾



安吾賞宣言書 2006年2月17日 安吾忌に寄せて



記者会見：左から 坂口綱男選考委員、篠田昭新潟市長、野田一夫選考委員長



授賞式ポスター



受賞者発表会風景

授がお祝いに駆けつけた。また、安吾賞の歴代受賞者である野田秀樹さん、野口健さん、瀬戸内寂聴さん、渡辺謙さんからもメッセージが寄せられた。

席上、キーンさんは「受賞の知らせを聞いたときとても驚きました。非常に嬉しいです。今までの自分の仕事を見てもらえたことに心から感謝しています。これからもっと世界に安吾を広めたいと思います。」と語った。

また、月乃さんは「私は安吾が大好きで、『墮落論』の何もなくなつて地面に落ちたところから何かが始まるということにとっても共感を覚え

ています。どん底から見える生きる喜びのようなものを伝えていけたらと思っています。」と語り、熱いメッセージのこもった自作の詩を披露してくれた。

ク・ラブに陥り、安吾は懊悩し酒場のマダムなどと同棲するデカダンスな生活を重ね、四年後ようやく彼女と訣別を決意。昭和十三年、新たな決意のもと執筆した長編『吹雪物語』は酷評され、安吾は自分に絶望し、転居を繰り返して自らを孤独の淵に置きながら、どん底の淪落の生活を送る。しかし『紫大納言』（昭和十五）、『木々の精谷の精』（昭和十五）などの新境地をひらく。

**小菅刑務所・ドライアイス工場・軍艦に見いだす必然の美** 昭和十七年、国粹主義の時代、大胆な『日本文化私観』を発表し、伝統文化を鷗呑みにすることの欺瞞を指摘した。

**墮ち切るにより真実の救いを発見せよ** 昭和二十一年、敗戦後の昏迷の中でいち早く戦後の本質を洞察し、四月『墮落論』、六月に『白痴』を発表。この二編は、若者を中心に戦後虚脱していた日本人に強い衝撃を与えた。戦前戦中の倫理観を捨て新たな生き方を指し示す革命的宣言は希望の書となり、『墮落論』によって戦後の日本が再スタートした。昭和二十二年『風と光と二十の私と』、『桜の森の満開の下』、『不連続殺人事件』、『青鬼の禪を洗う女』を発表。

**戦う安吾** 昭和二十五年、『安吾巷談』を連載し、戦後のタブーに挑戦する。昭和二十六年国税局と税金滞納、差押えをめぐる『負けラレマセン勝ツマデハ』を発表。税金闘争をひとり戦い抜き、同年九月には競輪不正事件で自転車振興会を相手どり戦う。『夜長姫と耳男』（昭和二十七）発表。

**急逝** 昭和三十年（一九五五）二月十七日、古代史の雄大な構想とともに、原風景に由来する創造活動に意欲を燃やしはじめた矢先に、桐生の自宅で脳溢血で急逝した。享年四十八

安吾賞選考委員



委員長  
野田 一夫  
多摩大学名誉学長



副委員長  
猪口 孝  
新潟県立大学学長 東京大学名誉教授  
日本学術会議会員



池田 弘  
(学)新潟総合学園総長



岩里 祐穂  
作詞家/エッセイスト



齋藤 正行  
安吾の会世話人代表  
新潟・市民映画館シネ・ウインド代表



坂口 綱男  
写真家/エッセイスト  
(坂口安吾長男)



古海 正子  
日本アイ・ピー・エム (株)  
人事シニアアドバイザー



松岡 正剛  
編集工学研究所所長  
イシス編集学校校長

安吾賞推薦人 (敬称略50音順)

青木 邦雄 (財)東日本鉄道文化財団副理事長  
青島 健太 スポーツライター  
嵐山 光三郎 作家  
安齋 隆 (株)セブン銀行代表取締役会長  
稲盛 和夫 京セラ(株)名誉会長/稲盛財団理事長  
植村 柄音 著述業  
内田 力 (株)コロナ代表取締役社長  
梅原 猛 哲学者  
荻野 アンナ 作家/慶應義塾大学教授(文学部)  
角川 歴彦 (株)角川グループホールディングス代表取締役会長  
(株)角川書店取締役会長  
川淵 三郎 (財)日本サッカー協会名誉会長  
菊池 明郎 筑摩書房代表取締役社長  
北川 正恭 早稲田大学大学院教授  
小林 幸子 歌手  
佐藤 忠男 映画評論家/日本映画学校校長  
佐藤 信秋 参議院議員  
白井 克彦 早稲田大学総長  
関川 夏央 作家/神戸女学院大学客員教授  
高澤 正樹 新潟放送相談役/日本文芸家協会会員  
武田 鉄矢 海援隊  
田中 里沙 宣伝会議編集室長  
檀 太郎 CMプロデューサー/エッセイスト  
敦井 榮一 新潟商工会議所会頭  
中山 輝也 新潟経済同友会代表幹事  
野沢 慎吾 セコム上信越(株)代表取締役副会長  
服部 幸應 (学)服部学園理事長/服部栄養専門学校校長/  
医学博士/新潟市食と花の総合アドバイザー  
桜美林大学教授

早野 透 作家  
半藤 一利 小説家  
火坂 雅志 (株)ベネッセホールディングス取締役会長  
福武 総一郎 作家/法政大学教授  
藤沢 周 (株)ティー・ヴィー・キュー九州放送顧問  
牧 作樹 (株)ミヅマアートギャラリーディレクター  
三瀧 未雄 アルビレックスチアリーダーズ・チーフディレクター  
三田村 邦彦 俳優  
村松 友視 作家  
村山 俊晴 日本銀行監事  
山口 昭男 岩波書店代表取締役社長  
山本 寛斎 デザイナー/プロデューサー

安吾賞賛同者 (敬称略50音順)

渥美 千尋 パキスタン特命全権大使  
泉田 裕彦 新潟県知事  
内海 桂子 (社)漫才協会名誉会長  
ジェームス三木 脚本家  
篠田 正浩 映画監督/早稲田大学特命教授  
瀬戸内 寂聴 作家/僧侶  
檀 ふみ 女優  
手塚 眞 ヴィジュアルリスト  
福原 義春 (株)資生堂名誉会長  
松永 二三男 日本テレビ放送網(株)副参与  
宮田 亮平 東京藝術大学学長  
(株)旺文社

肩書きは2010年4月1日現在のものです。



第5回 安吾賞授賞式 2010年12月1日 りゅーとぴあ・劇場

- ◎授与式(安吾賞・新潟市特別賞)
- ◎ドナルド・キーン/スペシャルインタビュー
- ◎月乃光司/朗読パフォーマンス
- ◎人形浄瑠璃「越後国・柏崎 弘知法印御伝記」  
越後猿八座デモンストラクション公演

【安吾賞事務局】〒951-8550 新潟市文化政策課  
TEL. 025-226-2563 FAX. 025-230-0450  
E-mail bunka@city.niigata.lg.jp  
【安吾賞】URL  
<http://www.city.niigata.jp/info/bunka/ango/>  
【坂口安吾デジタルミュージアム】URL  
<http://www.ango-museum.jp>